

令和7年度（2025年度）教育委員会主要事業点検・評価表

めざすまちの姿1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育っている

施策1 子どもや子育て世代への支援

単位施策1-1 親子ともに健やかな育ちを推進する

【社会教育課】

番号	1	事業名	家庭教育シンポジウム開催事業	事業費	565 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	現代の子どもを取り巻く複雑な環境を家庭教育の観点から分かりやすく課題整理し、子育て中の保護者の悩みを軽減し、家庭教育力を向上させるため、未就学期から思春期までの様々な世代に合わせたシンポジウムを開催する。				
実施内容	現代の子どもを取り巻く複雑な環境を家庭教育の観点から分かりやすく課題整理し、保護者の悩み解決の一助とするとともに、地域とのつながりを踏まえた家庭教育力の向上を図るため、家庭教育に関するシンポジウムを1回開催した。 参加者数 141 人				
目標に対する 評価	幼児期の子どもを持つ母親と関わる市民団体、学校教諭、地域活動者、自閉スペクトラム症を啓発している団体からパネリストを選定し、子どもについて抱える悩みを共有し、解決に向けて多角的な視点を提供することができた。				
課題・改善点	より幅広い参加者にアプローチできるよう実施方法や募集方法を検討し、市民が家庭教育について考える機会を提供していく。				

施策 2 子どもの学び・体験への支援

単位施策 2-1 子どもの生きる力を養い、学びの機会を提供する

【学校教育課】

番号	1	事業名	英語が話せる子ども育成事業	事業費	52,536 千円
令和 7 年度 (2025 年度)の 計画・目標	学校生活において英語を使うことを楽しみ、積極的に英語でコミュニケーションをしようとしたり、異文化を理解しようとしたりする児童生徒の育成を図るため、引き続き、英語指導支援員（A L T）を全校に配置し、小中学校が連携する英語・外国語活動の充実を図る。				
実施内容	A L T 12 人を小中学校に配置し、「英語のあいさつ」「ゲーム」「英語の歌」等、音声中心の活動により主に英語の音やリズムに慣れ親しむ活動や、コミュニケーションを楽しむ授業を行った。また、日本とは異なる外国の文化を紹介することで、子どもたちに興味を持たせることができた。授業の他、A L T が学校行事等でも子どもたちと過ごすことにより、自然に英語でコミュニケーションをとることができた。				
目標に対する 評価	令和 7 年(2025 年)12 月に、小学 5・6 年生と中学 1・2 年生を対象に「A L T との授業についてのアンケート」を実施し、小学 5 年生は 89%、小学 6 年生は 81%、中学 1 年生は 90%、中学 2 年生は 87%が A L T との授業が好きであると答えている。また、英語が使えるようになりたいと考えている児童生徒は、小学 5 年生は 80%、小学 6 年生は 77%、中学 1 年生は 79%、中学 2 年生は 75%であった。この結果から、小学校及び中学校の英語科における接続はおおむね良好といえる。A L T が歌やゲーム等、児童生徒にとって親しみやすい活動を取り入れたり、A L T が話す母国語レベルの英語に触れたりすることによる効果大きい。また、英語への関心意欲を持続させることもできている。				
課題・改善点	A L T との授業が好きではないと回答する児童生徒子の理由に、小中学校共通して「A L T が何を言っているのかわからない」という意見がある。今後も、歌やゲームを取り入れながら楽しい雰囲気英語に親しめるようにする。また、授業の中で児童生徒が身近な生活場面を想定しながら日本語を使わず、英語でコミュニケーションできる場面を設定することで、英語に興味を持ち、伝え合う喜びを実感できるようにする必要がある。				

番号	2	事業名	① 小学生親善交流事業 ② 中学生親善交流事業
		事業費	① 5,090 千円（米沢市 2,153 千円、釜石市 2,937 千円） ② 1,570 千円（米沢市 510 千円、沖縄市 1,060 千円）
令和 7 年度 (2025 年度)の 計画・目標	姉妹都市である米沢市や釜石市、沖縄市との交流を通して、相互の歴史や文化の理解を深めるとともに、団員相互の連帯と協調を図ることを目標とする。		
実施内容	① 小学生親善交流事業 【米沢市】 市内小学校 5 年生の代表 24 名で構成する親善訪問団を 2 月 13 日から 3 日間米沢市へ派遣し、雪灯籠・雪ぼんぼりの制作、上杉雪灯籠まつり・上杉博物館等の見学、雪ん子少年団との交流を実施した。 【釜石市】 市内小学校 6 年生の代表 24 名で構成する親善訪問団を 8 月 25 日から 3 日間釜石市へ派遣し、釜石市の小学生との交流活動、いのちをつなぐ未来館・鶴住居復興スタジアムの見学、被災者の方の講話等を実施した。 ② 中学生親善交流事業 【米沢市】 米沢市の中学生 12 人を 7 月 25 日から 3 日間受け入れ、平洲記念館、芸術劇場（嚶鳴広場・対面の像）の見学、中部国際空港（セントレア）見学、ピカピカ泥団子づくり体験及び日本製鉄株式会社名古屋製鉄所の工場見学等を実施した。 【沖縄市】 沖縄市の中学生 16 人を 12 月 5 日から 4 日間受け入れ、平洲記念館、日本製鉄株式会社名古屋製鉄所の工場見学、大田まつりの山車蔵等の社会見学や交流会等を行い、東海市の魅力を十分に伝えることができた。		
目標に対する 評価	① 小学生親善交流事業 【米沢市】 子どもたちが、平洲先生と鷹山公との絆が現代に引き継がれていることを自分たちの体験を通し、知ることができた。また、団員たちとの共同作業や体験活動を通して、協調性や相互扶助の精神を身につけることができ、今後の生活に生かそうとする姿勢が見られた。 【釜石市】 釜石市に訪れることで震災の悲惨さや防災教育の大切さを身に染みて学ぶことができた。また、姉妹都市である両市の関わりや互いの文化や歴史について理解を深めることができた。		

番号	2	事業名	① 小学生親善交流事業 ② 中学生親善交流事業
		事業費	① 5,090 千円（米沢市 2,153 千円、釜石市 2,937 千円） ② 1,570 千円（米沢市 510 千円、沖縄市 1,060 千円）
	② 中学生親善交流事業 【米沢市】 両市の郷土の違いを知り、東海市の良さに改めて気づくきっかけとなった。また、先施の心をもって米沢市訪問団をもてなすことができ、細井平洲先生と上杉鷹山公のように、両市の訪問団員の絆も深まった。 【沖縄市】 中学 2 年生で訪れる沖縄市をより深く感じ取ることができた。互いの郷土の違いを知るとともに、東海市の良さを再発見するきっかけとなった。また、おもてなしをする立場として、相手に対する気遣いや、積極性を学ぶことができた。		
課題・改善点	団員たちが本事業を通して学んだことを他の児童生徒にも伝え、市全体で姉妹都市の文化や歴史等について理解を深めていく必要がある。		

【学校教育課】

番号	3	事業名	沖縄体験学習事業	事業費	109,707 千円
令和 7 年度 (2025 年度)の 計画・目標	沖縄の持つ豊かな自然や文化・歴史・風土に触れることにより視野を広げるとともに、ふるさと東海市を客観的に見つめ、平和を愛し、命の大切さを学ぶことを目的とする。				
実施内容	中学校 2 年生全員を対象に、沖縄市等において 2 泊 3 日の体験学習を実施し、海洋研修による自然体験、平和学習及び沖縄市立中学校での学校間交流などの活動を行った。				
目標に対する 評価	事業実施後のアンケートでは、「語り部の方からの話を聞き、子どもが当たり前のように死んでいく戦争の恐ろしさを感じた」「姉妹都市である沖縄市の中学校と交流をした際、短い時間であったが話せたのがとても嬉しかった」などの感想があり、96%の生徒が「とてもよかった」、「よかった」と回答している。また、生徒が平和等について考える貴重な経験となり、生徒の心に残る体験学習となった。				
課題・改善点	今年度からの行程変更（沖縄本島内で 2 泊 3 日）により、平和学習の時間が少なかったとの意見があった。平和祈念公園やひめゆりの塔見学の時間帯に平和祈念堂での語り部の話が加わったため、施設見学の時間が短くなったのではないかと考える。平和学習の時間について検討する必要がある。				

【学校教育課】

番号	4	事業名	学校給食食物アレルギー対応事業	事業費	259 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	食物アレルギーを有する児童生徒が年々増加しており、代替用の弁当を持参するという保護者の負担軽減を図るため、主食の代替食（パックご飯）を提供する。				
実施内容	食物アレルギーを有する児童生徒のために、主食が「パン」、「麺」、「麦ご飯」、「五穀ご飯」の献立の日に「パックご飯」を提供した。				
目標に対する 評価	主食の代替食を提供することにより、食物アレルギーを有する児童生徒が代替用の弁当を持参することがなくなり、保護者の負担軽減が図られ、児童生徒も温かいご飯を食べることができるようになった。				
課題・改善点	食物アレルギーを有する児童生徒に安心安全な給食を提供する必要がある。				

【学校教育課】

番号	5	事業名	授業力向上事業	事業費	2,410 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	子どもたちの学力向上には、教員の資質向上が不可欠である。各学校の実態に即した研修と研究を行うことにより、教員の授業力向上を図る。 とりわけ、特別支援教育に関しては、近年の急激な特別支援学級、中でも広汎性発達障害等の子どもたちが在籍する自閉症・情緒障害学級の増加だけでなく、通常の学級にもASDやLD、ADHDといった特別な支援を要する児童生徒が一定数在籍するといわれる等、自閉症・情緒障害及び発達障害の理解に関するニーズが高いことから、資格をもつ講師による「生きる力と心を育むプログラム『セカンドステップ』」を自閉症・情緒障害学級を主とした特別支援学級で実施することにより、発達障害等の子どもたちの理解と支援について教員が学び、指導につなげていく。				
実施内容	教員の授業力向上を図るため、各校において研修・研究を実施し、特別支援教育等の充実のためのモデル校を中心とした授業研究を行った。				
目標に対する 評価	実践的・体験的な研修や授業の参観により、日頃の教育活動の課題解決につながった。また、教員が学んだことを生かして授業改善に取り組んだことで、児童生徒が意欲的に学び、主体的に考えようとする意識が高まった。				
課題・改善点	各学校の実態に合わせて、教育活動に関する先進的な取組を行う講師や、教育現場の今日的課題に指導・助言をもらえる講師を招き、先を見据えた研修を実施していくとともに、引き続き教員の資質向上を図る。				

単位施策 2-2 悩みを抱える子どもに寄り添った支援を充実させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	学校の居場所づくり事業	事業費	30,881 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	不登校やいじめの原因解消と、子どもたちが抱える問題の早期発見につなげるため、心の不安や体調不良を訴え、保健室などに居場所を求める子どもたちに対し、その相談相手となる養護教諭と連携して対応する「心の相談員」を配置する。				
実施内容	令和7年度（2025年度）は、小学校6校、中学校6校に心の相談員を配置し、複数の目で見守ることにより、相談しやすい環境を整えた。				
目標に対する 評価	保健室に養護教諭もしくは心の相談員のどちらかがいることで、来室した児童生徒と話をすることができ、子どもたちに安心感をもたらすことができた。また、気になる子どもの情報共有を行うことで、不登校傾向の子どもの早期発見にもつながり、不安解消への一助となっている。				
課題・改善点	県の養護教諭に欠員が出た際、養護教諭の資格をもつ本市の心の相談員が県採用の養護教諭となることにより心の相談員が欠員となるケースが度々ある。子どもたちが安心して来室できるよう、安定した配置を図る必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	各種サポート事業	事業費	184,217 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	児童生徒に対し必要な支援ができるようにするため、目的に応じて特別支援教育支援員及び障がい児サポーター、読書活動サポーターを配置し、学校生活の支援の充実を図る。				
実施内容	特別支援教育支援員を各小学校に1～3人（計26人）配置し、発達障がいの傾向がある児童等が在籍している学級に対して必要な支援を行った。また、身体障がいがあるなど、校内生活における安全管理が必要な児童生徒に対し、障がい児サポーターを14小中学校に1～5人（計38人）配置し、対象児童生徒の補助等を行った。 また、各小学校に読書活動サポーター1人（計12人）を配置し、図書館整備や図書委員会の補助、本の読み聞かせ等を行った。				
目標に対する 評価	特別支援教育支援員の配置により、通常の学級に在籍する発達障がいの傾向にある児童生徒が学校生活を送る上で必要な支援を行うことができ、在籍する学級運営に有効であった。さらに、障がい児サポーターの配置は障がいにより校内での安全管理が必要な児童生徒への合理的配慮の提供となり、それぞれの児童生徒が安心して通学し、学校生活を送ることができるようになった。				
課題・改善点	特別な配慮を要する児童生徒が増加傾向にある中で、障がい児サポーターや特別支援教育支援員の配置等について十分な検討が必要である。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	不登校対策事業
		事業費	38,396 千円（SSW人件費は職員課予算）
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	不登校傾向等の問題を抱える子どもたちに対して、豊かな人間関係や社会性の育成など、自立への基盤づくりを支援するため、教育支援センター「ほっと東海」の運営や、宿泊体験活動「青空教室」を実施するとともに、スクールカウンセラー並びにスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもたち一人一人の状況等に応じた支援を行う。		
実施内容	教育支援センター「ほっと東海」では、教育相談員と教科指導員、サポーターを上野公民館教室、横須賀教室及び平洲中学校教室に各1名ずつ配置し、不登校の要因、不登校による学習の遅れ等をきめ細かく指導している。9月13日から3日間、国立若狭湾青少年自然の家で青空教室を実施した。 また、スクールカウンセラーについては、県からの派遣が十分でない小学校へ4人派遣し、不登校傾向の児童への支援を行い、スクールソーシャルワーカーは、拠点校を中心に各機関と連携しながら家庭的背景を要因とする不登校傾向の児童生徒に対し、福祉等の観点から効果的な働きかけを行い、不登校対策協議会では、不登校の全市的な傾向や実態を把握・分析し、不登校状態の児童生徒に対する支援推進等を協議した。		
目標に対する 評価	不登校傾向にある児童生徒に対して居場所や学ぶ場の提供、自立のための援助をすることができた。		
課題・改善点	生活リズムの乱れ等を要因とする登校渋りや、中1ギャップなど複合的な要因により不登校傾向の児童生徒の増加が見受けられることから、教員やほっと東海、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによるグループ支援を強化し、必要に応じて関係機関との連携を深め、不登校の未然防止や解消に繋げていく必要がある。		

【学校教育課】

番号	4	事業名	いじめ防止等対策事業	事業費	57 千円
令和 7 年度 (2025 年度)の 計画・目標	東海市子どものいじめ防止条例の制定を受け、子どものいじめ防止等対策委員会を設置し、いじめの全市的な傾向や実態を把握・分析し、いじめ対策を推進する。 また、子どもたち自身がいじめを防ぐために何ができるかを考える機会とするため、「東海市子どものいじめ防止サミット」を開催する。				
実施内容	平成 28 年（2016 年）4 月に東海市子どものいじめ防止条例が施行されたことに伴い、年 2 回東海市子どものいじめ防止等対策委員会を開催し、本市のいじめの状況や学校での取組、今後の課題等について協議した。 また、平成 28 年度（2016 年度）より、「東海市子どものいじめ防止サミット」を立ち上げ、市内 18 小中学校から選出された代表児童生徒がいじめに対する意見交換を行っており、令和 7 年度（2025 年度）は、対面形式とオンライン形式で各 1 回、合計 2 回サミットを実施した。各校の代表が、自校の取組状況の報告をしたり、他校の取組に対する質問をしたり、東海市全体として取り組みたいことについて意見を交換した。また、サミットの提言を受け、生徒指導研究部会では、いじめ防止の力を育むための「いじめ未然防止プログラム」の検証授業を行った。				
目標に対する 評価	「いじめ防止サミット」の活動として、各校の児童会・生徒会が中心となっていじめ防止のために何ができるのかを考え、子どもたちが主体的に活動をすることができ、「いじめをしない・させない・見逃さない」の意識が高まっている。				
課題・改善点	いじめの中には、インターネットや SNS によるトラブル、コミュニケーション不足から始まるものもあるため、情報モラル教育の推進や教員の資質向上に取り組むとともに、子どもの自己肯定感を高め、学校に居場所があることを感じられるような魅力的な学校づくりなど、未然防止に力を入れる必要がある。 また、いじめ防止サミットで各学校がいじめ防止に向け取り組んだ内容を拡散し、継続していじめのない学校づくりに取り組んでいく。				

単位施策 2-3 子どもが安心安全で快適に学ぶことができる環境を整備する

【学校教育課】

番号	1	事業名	小中学校外壁等改修事業	事業費	370,651 千円
令和 7 年度 (2025 年度)の 計画・目標	東海市学校施設長寿命化計画に基づき、学校施設の老朽化対策としての予防保全と教育環境の質的な向上を併せて実施する長寿命化を図るため、計画的な校舎等の改修等として外壁改修や屋上防水を実施する。				
実施内容	外壁改修（渡内小、明倫小、平洲中）、防水改修（渡内小、明倫小、加木屋南小、平洲中）を行った。				
目標に対する 評価	令和 7 年度(2025 年度)に実施する施設整備は年度内に完了し、児童生徒が快適に学校生活を送ることができる環境を確保することができた。				
課題・改善点	児童生徒が快適で安全・安心な学校生活が送れるよう学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な更新や改修を実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	小中学校プール解体事業	事業費	63,966 千円
令和 7 年度 (2025 年度)の 計画・目標	水泳授業を民間施設での実施に移行したことにより使用していない学校プールについて、学校や周辺環境の改善及び土地の有効活用を図るため、解体工事及び解体に向けたアスベスト含有調査等を実施する。				
実施内容	アスベスト含有調査等（平洲小、富木島中）、解体工事（富木島小）を行った。				
目標に対する 評価	令和 7 年度(2025 年度)に実施する施設整備は年度内に完了し、土地の有効活用を図ることができた。				
課題・改善点	使用していない学校プールの解体に向け、今後も計画的に実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	中学校トイレ洋式化整備事業	事業費	110,330 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	学校トイレの環境改善を図るため、普通教室に隣接するトイレについて、和式便器の洋式化や小便器への自動洗浄装置の設置を実施する。				
実施内容	中学校6校の生徒が利用する普通教室に面したトイレ164カ所の洋式化及び小便器自動洗浄器設置を行った。				
目標に対する 評価	洋式化及び小便器自動洗浄器設置により、生徒がトイレを利用しやすくなり、生徒の学習環境及び学校での生活環境の改善を図ることができた。				
課題・改善点	小中学校トイレの環境改善に寄与する事業を今後も計画的に実施する必要がある。				

単位施策 2-4 学校と家庭・地域の連携を充実させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	学校評価事業	事業費	1,080 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	学校運営の改善を図り、開かれた学校、地域に信頼される学校づくりを進めるため、各小中学校で学校評価を実施する。				
実施内容	児童生徒、保護者、教員及び地域に対し、それぞれの学校の方針や学校運営の方向性等についてのアンケートを実施した。また、教育活動、学校運営の自己評価も行い、アンケート結果とともに公開した。経年変化を見ていく項目と重点に絞る項目と区別をしっかりとアンケート項目を精選した。				
目標に対する 評価	学校の重点目標を明確にしたアンケートを実施することにより、今年度取り組んできた教育活動を客観的に振り返ることができた。また、その結果を基に、来年度の教育方針を立てる一助となった。さらに、アンケート項目を精選したことにより、成果と課題が明確になった。				
課題・改善点	より評価しやすいアンケート項目の検討を行うとともに、学校評価アンケート以外での評価指標の検討を行っていく必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	吹奏楽地域クラブ運営事業	事業費	4,975 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	9月から休日の部活動を廃止し、地域展開することに伴い、中学生が演奏活動に親しむことができるよう、各中学校において吹奏楽地域クラブを運営し、休日の活動の場を提供する。				
実施内容	(株)エイジェックに運営管理を委託し、吹奏楽地域クラブを市内6中学校に設置した。				
目標に対する 評価	中学生が演奏活動に親しむことができるよう、休日の活動の場を提供することができた。				
課題・改善点	参加生徒数や大会参加への意欲等、各クラブの指導者や参加する生徒に大きな差があるため、さらなるルール整備が必要である。 また、参加者数もクラブによって差があるため、活動内容等の周知が必要である。				

【学校教育課・社会教育課】

番号	3	事業名	コミュニティスクール導入事業	事業費	607 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	未来を担う子どもたちの成長を地域全体で支える仕組みの実現に向け、「地域とともにある学校づくり」を目指し、令和6年度にモデル校において設置した学校運営協議会と、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行う地域学校協働活動を一体的に推進するため、引き続き実施検証する。				
実施内容	地域、家庭の学校運営への参画や支援、協力を促進し、「地域とともにある学校づくり」を進めるため、モデル校である三ツ池小学校及び加木屋中学校において、学校運営協議会を開催するとともに、地域学校協働活動推進員を各校2人ずつ委嘱し、地域学校協働活動の実証実験を行った。 また、東海市学校運営協議会（コミュニティ・スクール）導入計画を改定し、令和9年度、10年度に導入する学校を定めた。				
目標に対する 評価	学校が地域や保護者と教育目標を共有し、組織的・継続的な連携ができた。 学校運営協議会の委員に地域学校協働活動推進員を加え、地域学校協働活動を円滑に進めることができた。 また、新たな導入スケジュールに沿って順次拡大していくことを定めることができた。				
課題・改善点	実際の活動調整等の場面では、各校の教頭先生の負担が依然として大きいとため、活動の趣旨等を地域にも浸透させ、活動拠点を活かした周知・啓発に取り組んでいく必要がある。				

単位施策 2-5 地域と協力し、子どもの健全な成長を支援する

【社会教育課】

番号	1	事業名	ふれあい交流推進事業	事業費	300 千円
令和 7 年度 (2025 年度)の 計画・目標	子どもの社会性をはぐくみながら地域との交流を図る場を提供するため、幼児、小学生、中学生等の異年齢の交流や地域を始めとした大人との交流を創出する「ふれあい交流推進事業」を実施する。				
実施内容	大人と子どものふれあい活動が活発な上野中学校区、平洲中学校区、横須賀中学校区のふれあい交流事業実行委員会等に委託し、異年齢の子ども同士の交流や地域住民と子どもとの交流の場を提供の計画をした。 上野中学校区では、あいさつの大切さや意義を学ぶため、中学生が中心となり、登校する児童や地域住民とあいさつを交わす「上中校区あいさつ運動」等を実施した。また、小学生が地域住民から絵手紙やお囃子、民謡等を学ぶ「日本伝統文化体験」を実施し、文化についての理解を深めた。 平洲中学校区では、小学生、中学生、保護者、地域住民が協働して、校舎内外の整備及び清掃活動を行う「草花ボランティア作業」や「環境整備活動」等を実施した。 また、横須賀中学校区では、4 月から横須賀中学校に入学する小学校 6 年生を対象に、地域住民や中学生、小中学校教員と触れ合う「横中レクリエーション」を実施した。 上野中学校区延べ参加人数 1,894 人 平洲中学校区延べ参加人数 240 人 横須賀中学校区延べ参加人数 94 人				
目標に対する 評価	異なる年代の子どもや大人に様々な活動を通して、貴重なふれあいの場を提供することができた。 上野中学校区では、異年齢の子どもを思いやり、温かく迎え入れるための社会性、協調性を高めることができた。 平洲中学校区では、勤労の精神を養い、地域への愛着の気持ちを高めることができた。 横須賀中学校区では、小学校 6 年生が入学前に中学生等と触れ合うことで、入学への期待を高め、中学校生活への不安の軽減を図ることができた。				
課題・改善点	子どもが社会性を身につけるために、異なる年代の子どもや大人がふれあう機会は有効であるため、継続して実施していく必要がある。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	学習支援教室開催事業	事業費	3,145 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	家庭学習が十分でなく、学習習慣が身につけていない中学生を対象に、学習する場を提供して生徒の居場所をつくとともに、学習習慣を身につけることで基礎学力の向上を支援する。また、市内在住の生徒を広く受け入れるため、開催場所を市内南北2か所に設定して実施する。				
実施内容	市内の6中学校の全学年生徒を対象に、毎週土曜日及び日曜日に市内南北2か所で実施し、学習支援員等による学習の支援を行った。 実施回数 北地区(日曜日) 40回 南地区(土曜日) 41回 延べ参加者数 北地区(日曜日) 481人 南地区(土曜日) 858人				
目標に対する 評価	北地区、南地区ともに出席率は良好であり、生徒の居場所づくり及び基礎学力の向上につながったと考える。また、中学3年生の参加者について、全員進学することが決定した。生徒からは「分からないことがすぐに聞けて良かった」「学校より詳しく教えてもらった」等の感想もあり、気軽に参加できる雰囲気をつくることができていると考える。				
課題・改善点	学習支援員については小中学校教員の勤務経験者を配置しているが、年齢層が上昇しており、今後に向けた人材の確保方法を検討する必要がある。				

【社会教育課】

番号	3	事業名	放課後児童対策事業	事業費	230,411 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	子どもたちの安全で安心な居場所の提供と、多様な体験活動を推進すると共に、地域全体で子どもの健全育成を図るため、子ども教室と放課後児童クラブを連携して実施する。				
実施内容	子ども教室では、小学校の特別教室等の施設を活用し、地域住民等の協力を得て、文化活動やスポーツ、学習活動等を実施した。ものづくり特別教室（ものづくり道場）については、大ホールイベントとして「ボルトボルズの笑ってタメになる！サイエンスショー」を実施した。 放課後児童健全育成事業では、保護者が就労等で昼間家庭にいない小学校1年生から6年生までの全学年の児童を対象に生活の場と遊びの場を提供し、安全・安心な居場所づくりを行った。 放課後子ども総合プラン運営委員会を10月と3月に開催した。				
目標に対する 評価	子ども教室と放課後児童健全育成事業を連携して実施し、子どもたちにとって安全・安心な居場所を確保することができた。 子ども教室については、令和4年度（2022年度）より引き続き拡充して実施しているスポーツ等の体験機会を提供し、多くの児童が参加、様々な体験機会を提供できた。 放課後児童健全育成事業については、小学校の長期休業期間中における昼食提供の実証実験を前年度3月に行い、保護者アンケート及び事業者との調整のうえ、夏休みから本格導入を行った。 放課後子ども総合プラン運営委員会においては、大田小学校の子ども教室と放課後児童クラブの一体型運営の視察を行い、学校教育課、こども課と連携して総合的に協議することができた。 【子ども教室】 12 小学校 ・延べ参加者数(体験教室) 10,021 人(前年度比較 420 人減) 1 回当たり 11.2 人 ・教室開催回数 896 回(前年度比較 58 回増) ・延べボランティア講師数 1,580 人(前年度比較 51 人増) 【ものづくり特別教室（ものづくり道場）】 ・実施ブース数 27 ブース (事前予約 16 ブース、当日参加 11 ブース) ・来場者数 1,900 人 【放課後児童健全育成事業】 12 小学校 平日 1 日当たり平均利用人数 841 人(前年度比較 2 人減)				
課題・改善点	子ども教室は、人気教室にとらわれることなく、様々な内容の教室に取り組み、豊かな体験活動の場を提供していく。夏季の猛暑による児童生徒の熱中症事故を未然に防止するため、夏季（5月～9月）におけ				

番号	3	事業名	放課後児童対策事業	事業費	230,411 千円
	るスポーツ分野の体験教室については、空調機を活用しながら、引き続き暑さ指数（WBGT）を考慮した運営方法で実施していく。 放課後児童健全育成事業は、児童を安全・安心に預かることができるよう、適切なクラブ室や指導員の確保が重要であるため、利用者数が増加している地区のクラブを中心に、実施場所の確保に向けた学校との調整及び指導員の確保に努める必要がある。				

【社会教育課】

番号	4	事業名	青少年居場所づくり推進事業	事業費	438 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	青少年の良好な対人関係づくりを支援するために、スポーツ活動等を通して青少年と大人との交流を図り、青少年の社会性や協調性を育む機会を提供する。				
実施内容	ふれあい活動として、小学5年生から中学生対象のボルダリング競技とボウリング競技を実施し、参加した学生ボランティアや関係機関等の協力者と交流を図った。 ・ボルダリング競技 令和7年（2025年）8月26日 参加者 38人 ・ボウリング競技 令和7年（2025年）12月24日 参加者 45人				
目標に対する 評価	地域、学校、警察、各種団体等の多様な機関に属する大人に加え、学生ボランティアの参加により異年齢の交流が生まれ、社会性や協調性を育み良好な対人関係づくりの機会になったと考える。				
課題・改善点	ふれあい活動は、小中学生の体験活動の場であると同時に、高校生や大学生がボランティアとして地域の子どもたちと関わりながら学ぶ機会にもなっている。今後は、参加者とボランティアの双方の成長を支える事業として充実を図り、青少年健全育成の輪を広げていく必要がある。				

めざすまちの姿 4 心身ともに健康で、いきいきと生活している

施策 12 生涯学習の推進

単位施策 12-1 市民の生涯学習活動を支援する

【社会教育課】

番号	1	事業名	地区公民館等活動推進事業	事業費	4,693 千円
令和 7 年度 (2025 年度)の 計画・目標	地区公民館等は、地域の学びの場、地域づくりを推進するため、高齢者世代、子育て世代などを対象とする魅力的な講座等を引き続き実施する。				
実施内容	地域住民の学習ニーズや地域課題にあった教室・講座・展示・大会等を実施した。 ・場所 市内公民館・市民館 16 館				
目標に対する 評価	地域住民等のニーズを捉えた各種教室等を開催した。 ・講座数 231 件（前年度比較 -19 件） ・実施回数 1,298 回（前年度比較 +105 回） ・延べ参加者数 17,718 人（前年度比較 +868 人）				
課題・改善点	引き続き地域住民等のニーズを捉えた教室等を計画し、開催していく。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	上野公民館給排水設備改修事業	事業費	34,762 千円
令和 7 年度 (2025 年度)の 計画・目標	老朽化している上野公民館の給排水設備の改修工事を実施する。また、給排水設備の改修にあわせ、バリアフリースイレを設置する。				
実施内容	給排水設備の改修工事を実施し、あわせてバリアフリースイレを設置した。				
目標に対する 評価	給排水設備を改修することで、施設の長寿命化を実施できた。バリアフリースイレを設置することにより、利用者が安心して安全に利用できる設備環境を整備した。				
課題・改善点	引き続き、個別施設計画に基づく施設の長寿命化に取り組み、利用者の安全・安心な生涯学習活動の場となるよう、指定管理者と連携し、維持管理に努める必要がある。				

【社会教育課】

番号	3	事業名	公民館等 Wi-Fi 環境整備事業	事業費	11,356 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	市民サービスの向上及び公民館等の新たな利活用につなげるため、地区公民館・市民館に Wi-Fi 環境を整備する。				
実施内容	地区公民館・市民館に Wi-Fi 環境を整備した。				
目標に対する 評価	地区公民館・市民館 14 館に Wi-Fi 環境を設置することで、利用者の生涯学習活動の幅を広げるための環境整備ができた。 Wi-Fi 環境を活用した中高生への学習スペース開放を実施し、若い世代の施設利用の機会を創出した。				
課題・改善点	Wi-Fi 環境を活用した自主事業を実施し、Wi-Fi 環境の活用を利用者へ周知する等、利用者の生涯学習活動に活かしてもらうよう働きかけていく必要がある。				

【社会教育課】

番号	4	事業名	東海市創造の杜交流館活用促進事業	事業費	4,832 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	映像分野やクリエイティブな活動への興味や関心を引き出すことで、施設の利用促進と創造性豊かな人材育成につなげるため、映像クリエイターによる講演会や施設のPRを実施する。				
実施内容	PR映像の名古屋駅等デジタルサイネージへの掲出をはじめ、創造の杜交流館のPRを実施し、開館後の利用促進に取り組んだ。 映像クリエイター講演会を開催し、映像制作への興味・関心を広げる取り組みを実施した。				
目標に対する 評価	映像等を用いた広告により、市民をはじめ市内外に対して、創造の杜交流館のPRをすることができた。 映像クリエイター講演会では、映像制作に取り組む意欲を引き出す機会とすることができた。				
課題・改善点	利用率向上のため、指定管理者と連携を取りながら、民間のノウハウを活かした管理運営体制を整えていくとともに、継続的な施設の周知及び利用促進を実施する必要がある。				

単位施策 12-2 読書を楽しむ環境を充実させる

【中央図書館】

番号	1	事業名	子ども読書活動推進事業	事業費	8,441 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	子どもが自然に読書に親しみ、言葉を学び、感性を磨き、豊かな表現力と創造力を醸成するため、子どもが本に触れる機会の拡大と読書環境の充実を図る。				
実施内容	【子ども文庫(小学校)事業】 小学生に薦めたい本をセットした「わくわく文庫」を1～6年生は毎月1回、特別支援学級は学期ごとに学校・学級間で巡回させ、全学年で677冊の児童書を更新し、小学校間の移動時には、書籍消毒機を使用して本を除菌・消毒し、子どもの読書環境を整備した。また、小学校での読書支援では、児童向けのブックトークやおはなし会に加え本の修理講座などを実施した。 【子ども司書体験講座】 小学4～6年生を対象に、図書館を身近に感じ、本や読書に対する理解を深めてもらうために、窓口業務を含む図書館司書の仕事を体験する講座を実施した。				
目標に対する 評価	子ども文庫（小学校）事業では教室内という身近な場所で多くの本に触れる機会を提供できた。子ども司書体験講座では、参加人数が増加し、図書館や司書への関心を深めてもらうことができた。				
課題・改善点	「わくわく文庫」は児童の生活に定着してきているが本の傷みが多く出ているため、今後も計画的に更新していく必要がある。				

【中央図書館】

番号	2	事業名	中央図書館運営事業	事業費	38,534 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	生涯学習の拠点として広く市民に親しまれる図書館を目指し、市民の多様な要望に応えられる図書館運営を行う。				
実施内容	幅広い年齢層の市民が本に親しみ、必要とする情報を得られる場を提供した。子ども達を物語の世界へ誘い込むきっかけづくりとして、読み聞かせボランティアの協力による「お話友の会」等の実施及び読み聞かせ活動の活性化を図るため、読み聞かせに関する初心者向け講座を開催した。 また、図書館をより身近に感じてもらうため、各種展示会や「本のリサイクル日」等を実施するとともに、小学生の施設見学の受入れ及び読書感想文コンクールの実施など、学校との連携も図った。				
目標に対する 評価	市民の生涯学習機会を充実させるため様々な事業を実施できた。子ども向けの「お話友の会」は74回実施し、計1,257人が参加、「読み聞かせボランティア講座」は子どもの発達に合わせた絵本の選び方や読み聞かせを行う側に必要な心構え等について学び、読み聞かせ活動を行う際に必要な知識とスキルを身に付けることができた。 また、季節や時事に合わせた図書の展示を実施し、幅広い世代に図書館をアピールしたと評価できる。				
課題・改善点	中央図書館、横須賀図書館とともに建築から40年以上経過し、施設の老朽化、駐車場の不足等が課題で、計画的な施設修繕や市民の利便性の向上を検討する必要がある。市民にとって利用しやすく、興味や関心を引く本が紹介できる環境の整備と蔵書の充実を目指していく。				

【中央図書館】

番号	3	事業名	日本福祉大学図書館連携事業	事業費	411 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	市民の読書機会を増やし、生涯学習活動を充実させるため、日本福祉大学東海キャンパス図書館と連携する。				
実施内容	日本福祉大学東海キャンパス図書館に一般市民向けの本・雑誌を配本した。				
目標に対する 評価	小説や実用書等一般市民向け図書96冊と雑誌20誌を配本し、市民の生涯学習の場を増やすことができた。				
課題・改善点	一般市民が大学図書館を気軽に利用できるよう、「図書館だより」等で周知を図る必要がある。				

施策 13 スポーツの推進

単位施策 13-1 市民のスポーツ活動を推進する

【スポーツ課】

番号	1	事業名	スポーツ推進委員会設置事業	事業費	6,265 千円
令和 7 年度 (2025 年度)の 計画・目標	スポーツ推進委員会を設置し、各種スポーツの市民大会運営や各種団体との連携によるスポーツ教室・イベント等を開催し、市民のスポーツ振興及び健康増進を図る。				
実施内容	【会議関係】 スポーツ推進委員会全体委員会 年 12 回 【大会関係】 ・ 第 3 回市民モルック大会 令和 7 年（2025 年）5 月 11 日 参加者 133 人 ・ 2025 夕涼みモルック 令和 7 年（2025 年）8 月 16 日 参加者 121 人 ・ 体力テスト&ニュースポーツ体験会 令和 7 年（2025 年）10 月 19 日 参加者 193 人 ・ 2026 ボッチャ体験会 令和 8 年（2026 年）3 月 15 日 参加者 37 人 以上の活動の他にも、市や地域のスポーツ活動に関わるとともに、知多北地区スポーツ連絡協議会の活動を通じて、近隣市町との交流及び情報交換を実施した。				
目標に対する 評価	ニュースポーツの大会や体験会においては多数の参加者が見受けられ、スポーツ推進委員の活動による認知度向上と、スポーツ機会の充実が図られている。 大会やイベントの運営だけでなく、運動会等のコミュニティの活動にも関わることで地域のスポーツ振興にも寄与している。				
課題・改善点	参加者の少ないイベントに対し、新たな種目やイベントの開催方法の検討を行い、より魅力ある事業を展開する必要がある。				

【スポーツ課】

番号	2	事業名	学校部活動地域移行推進補助事業	事業費	11,091 千円
令和7年度(2025年度)の計画・目標	総合型地域スポーツクラブである一般社団法人スポーツクラブ東海が、中学校運動部活動の地域移行として行う「ジュニアクラブ」事業に対して補助を行い、幅広い活動に向けた支援を行う。				
実施内容	スポーツ活動の場づくりの担い手となる、総合型地域スポーツクラブ「一般社団法人スポーツクラブ東海」が行うジュニアクラブ事業の活動に要する経費に対し補助を行った。				
目標に対する評価	部活動に代わり、継続的に多様なスポーツ活動に参加できるように活動場所の確保や活動費等に対し、支援することができた。 【令和7年9月以降のジュニアクラブの実施種目】 バレーボール、軟式野球、バドミントン、剣道、陸上、ソフトボール、サッカー、ハンドボール、バスケットボール、ソフトテニス、硬式テニス、柔道、卓球、ラグビー（14種目）				
課題・改善点	子どもたちの活動の場の更なる展開のため、種目数や活動場所の拡充ができるよう、「(一社)スポーツクラブ東海」と連携を図り、引き続き支援を行う必要がある。				

【スポーツ課】

番号	3	事業名	ちびっこ相撲開催事業	事業費	231 千円
令和7年度(2025年度)の計画・目標	相撲に興味関心を持ってもらう取り組みとして、鍛山部屋の協力のもと、市内の小学生を対象に「ちびっこ相撲(体験会)」を実施するとともに、「ちゃんこ鍋のふるまい」を実施する。				
実施内容	相撲を通じてスポーツ振興を図るため、名古屋場所で東海市に滞在している鍛山部屋力士の協力のもと、6月29日に愛宕神社(横須賀町)で鍛山部屋力士によるちびっこ相撲大会、ちゃんこ鍋のふるまいを実施した。				
目標に対する評価	鍛山部屋、東海相撲推進委員会、東海ロータリークラブ協力のもと、ちびっこ相撲を通じて、子どもたちが力士と交流し、楽しく相撲を体験することができ、スポーツ振興を図ることができた。				
課題・改善点	スポーツ振興のため、引き続き事業を行う必要がある。				

単位施策 13-2 スポーツに取り組む環境を充実させる

【スポーツ課】

番号	1	事業名	姉妹都市スポーツ交流事業 (国内)	事業費	1,944 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	市民相互の理解や親睦を深めるため、姉妹都市である釜石市の中学生を迎え、スポーツ（種目：バドミントン）を通じた交流を行う。				
実施内容	釜石市交流団 27 人（内中学生 22 人）を 8 月 2 日から 3 日間受入れ、東海市交流団 30 人（内中学生 20 人）とバドミントンを通じた交流を行った。				
目標に対する 評価	参加した中学生から、「普段とは違う選手とバドミントンができて楽しかった。」「バドミントンを通じて新たな繋がりができて嬉しい。」などの感想があった。交流を通じて、東海市や愛知県の魅力を釜石市の中学生へ伝えることができたとともに、両市の中学生がお互いに積極的に交流を図ることで、相互理解と絆を深めることができた。				
課題・改善点	熱中症による救急搬送の事案が発生したことから、今後東海市で訪問団を受入れる際には、東海市の気候に慣れていない釜石市選手の体力面や選手の技術レベルの差も考慮しながら実施内容を検討する必要がある。				

【スポーツ課】

番号	2	事業名	第20回アジア競技大会開催 支援事業	事業費	4,465 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	アジア競技大会カバディ種目の開催に伴い、機運を高めるため、PR物の制作や小学校の授業において、カバディ体験教室を実施するなど、受入れに向けて準備を進める。				
実施内容	・PR物としてチラシの全戸配布やPR映像の放映を実施 ・スポーツ出前授業（カバディ）実施 ・市内の高等学校・大学・公共施設へのカバディ漫画配置 ・カバディ体験会の実施				
目標に対する 評価	漫画の設置や体験会の実施により、カバディ自体の知名度を向上させるとともに、実際に競技を行う機会を提供したことで、カバディに興味を持った方がアジア競技大会の観戦についても考える機会となり、大会の機運醸成を図ることができた。				
課題・改善点	アジア競技大会開催年となるため、アジア競技大会はもちろんのこと、カバディについても、引き続き市民の方に興味や関心を持ってもらうための取組を行う必要がある。				

【スポーツ課】

番号	3	事業名	青少年センター跡地活用事業	事業費	13,800 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	青少年センター跡地において、バスケットボールを親しめる環境の整備に向け、基本設計及び実施設計を実施する。				
実施内容	青少年センター跡地活用について、用地測量及び実施設計を実施した。				
目標に対する 評価	用地測量及び実施設計を実施することでバスケットボールを親しめる環境の整備に向けて準備することができた。				
課題・改善点	青少年センター跡地の有効活用、スポーツ振興を図る取り組みとして評価できた。今後は、地域住民への丁寧な説明を行いながら、事業を進めていく。				

【スポーツ課】

番号	4	事業名	第20回アジア競技大会市民 体育館整備事業	事業費	154,807 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	アジア競技大会カバディ種目の開催に伴い、競技会場となる市民体育館の環境整備として、自動扉の設置、Wi-Fi 設置、トイレ改修、バリアフリー改修、アリーナ壁塗装改修を実施する。				
実施内容	・Wi-Fi 環境整備工事 ・トイレ改修工事 ・バリアフリー化改修等工事				
目標に対する 評価	アジア競技大会の開催に向けて施設環境の改善を図ることができた。				
課題・改善点	市民が安全にスポーツを楽しむ環境整備を今後も計画的に実施する必要がある。				

施策 14 文化芸術の推進

単位施策 14-1 質の高い文化芸術に親しむ環境を提供する

【文化芸術課】

番号	1	事業名	文化祭開催補助事業	事業費	5,600 千円
令和 7 年度 (2025 年度)の 計画・目標	市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、市民文化活動の発表及び鑑賞の場、交流の場として開催する東海市文化祭に対して補助する。				
実施内容	開催日：令和 7 年(2025 年)11 月 1 日～2 日 場 所：東海市民体育館 内 容：日頃の成果発表の場、発表作品の鑑賞の場として、以下のとおり展示等を行った。 【文芸部門】短歌大会、俳句大会、川柳大会 【美術部門】絵画展、書道展、写真展、工芸展、切手・絵手紙展、市民茶会、華道展、草樹展、子ども作品展、小中学校児童生徒書写秀作展 その他、似顔絵コーナーや沖縄体験学習コーナー、高校生川柳大会を設置した。				
目標に対する 評価	一部の部門においては応募点数が減少したものの、文芸部門を中心に絵画展、写真展、絵手紙展では応募点数が増加し、様々な世代に向けて、文化・芸術活動に取り組む機会を創出する事が出来た。また、様々な種類の部門作品を展示することで、幅広い市民に文化・芸術活動に触れる機会を提供することができた。引き続き、市民文化活動の発表及び鑑賞の場、交流の場として開催する東海市文化祭に対して補助していきたい。				
課題・改善点	現在、出品者には高齢世代が多く、毎年出品している方が中心になっている。新規の方や若い世代を含めた幅広い世代の方々の文化・芸術活動への参加によって街全体の賑わい創出に繋がることから、若い世代を始めとした幅広い世代の方々が文化・芸術活動に取り組む機会を、より多く創出するために、今後は若い世代でも目にしやすい SNS 等を使った広報活動等を通じて応募作品数の増加を図っていく必要がある。				

単位施策 14-2 文化芸術活動の担い手を育成・支援する

【文化芸術課】

番号	1	事業名	芸術劇場自主文化(鑑賞・にぎわい)事業	事業費	118,670 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標		文化創造プランⅡを踏まえ、市民が優れた文化芸術に身近に参加・体験ができ、市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくくり」の理念を掲げ、東海市芸術劇場において、様々な事業を実施する。			
実施内容		開館10周年を記念した公演や「東海市ひとづくりパートナーシップ」を締結している公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団と吉本興業株式会社に関する公演を中心に、鑑賞・にぎわい事業等を実施した。 【公演】 ・ポップス・コンサート、鋼鉄フェスティバル、葵トリオリサイタル、キーウ・グランド・バレエ・シアター、ケルティック・クリスマス2025、オペラ「蝶々夫人」、国際音楽祭 NIPPON2026、J A Z Z の劇場、吉本新喜劇&バラエティ、0歳からのわくわくオーケストラ等、19公演を実施(実入場者数 10,944 人) ・交流パフォーマンス 229 回(実出演者 619 人、入場者数 4,072 人) 【美術展】 ・東海市文化祭美術部門入賞作品展覧会 (出品者数 35 人、入場者数 173 人) ・木之下晃メモリアル 公募写真展 (出品者数 26 人) ・交流ギャラリー 17 展示			
目標に対する 評価		幅広いジャンルの事業を実施し、様々な年代層の方の参加もあり、「にぎわいづくり」をはじめとした芸術劇場の理念に結びつけることができた。また、令和7年度(2025年度)は特に、オペラ「蝶々夫人」やジャズの劇場など、一流のアーティストによる公演を安価で提供することができ、より多くの幅広い市民が優れた文化芸術を身近に感じることもできた。			
課題・改善点		「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくくり」の理念の実現に向け、中長期的な事業展開が必要であることから、継続して実施する必要がある。また、新たな分野も含めた公演等を実施することで、芸術劇場の認知度を向上させつつ「にぎわいづくり」を図っていく必要がある。			

【文化芸術課】

番号	2	事業名	芸術劇場自主文化(ひとつくり)事業	事業費	43,008 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	文化創造プランⅡを踏まえ、市民が優れた文化芸術に身近に参加・体験ができ、市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、「ひとつくり」「にぎわいづくり」「生きがいくくり」の理念を掲げ、東海市芸術劇場において、様々な事業を実施する。				
実施内容	「東海市ひとつくりパートナーシップ」を締結した公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団と吉本興業株式会社を中心に、次代の文化芸術を担う人材育成を中心とするひとつくり事業を実施した。 【公演】 ・東海児童合唱団定期演奏会、東海市子どものオーケストラ定期演奏会、東海市民合唱団定期公演、劇場招待コンサート（市内全小学5年生、中学2年生）の6公演（実入場者数5,048人） 【ワークショップ等】 ・芸術劇場を拠点とする4団体（東海市子どものオーケストラ、東海市民合唱団、東海児童合唱団、東海市ダンスチームMiakot）（延べ参加者数15,973人） 【アウトリーチ】 ・出会いの教室（市内全小学校4年生、適応指導教室「ほっと東海」を対象に全38回実施）（延べ参加者数1,075人） ・よしもと流楽しいコミュニケーション（名和小学校、船島小学校、加木屋小学校、富木島公民館、上名和公民館で全8回実施）（延べ参加者数782人） ・ふれあいコンサート（市内福祉施設等で全4回実施）（延べ参加者数242人） ・おんがくさんはじめてコンサート（市内保育園で全6回実施）（延べ参加者数408人）				
目標に対する 評価	よしもと流楽しいコミュニケーションは、多くの子どもたちにお笑いを通じたコミュニケーションのコツを経験してもらうことができ、今後の学校生活における円滑なコミュニケーションを図る一助となった。また、ふれあいコンサートは、各施設で計4回実施することができ、日頃芸術劇場に足を運ぶことが困難な方に対しても文化芸術に触れる機会を提供することができた。				
課題・改善点	「ひとつくり」「にぎわいづくり」「生きがいくくり」の理念の実現には、中長期的な事業展開が必要であることから、引き続き芸術劇場を拠点として、長期にわたり質の高い文化芸術を提供していく。特に次世代の子どもたちが早期に文化芸術に親しむ環境をつくり、人材を育				

番号	2	事業名	芸術劇場自主文化(ひとづくり)事業	事業費	43,008 千円
成し、市民主体の文化芸術の振興を図る必要がある。					

施策 15 郷土の歴史・伝統文化・文化財の継承と振興

単位施策 15-1 伝統文化や文化財の保存及び継承を支援する

【社会教育課】

番号	1	事業名	文化財保存・普及事業	事業費	10,500 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	東海市の貴重な文化財等を後世に引き継ぎ、文化財への関心を高めてもらうため、保存事業への補助及び普及事業を実施する。				
実施内容	文化財・埋蔵文化財(遺跡)の維持管理及び所有・管理者への補助事業を実施した。 公園整備予定地内に所在する御洲浜庭園遺跡(大田町)を記録保存するため測量調査を実施した。 老朽化した文化財表示看板(尾張横須賀まつり公通組山車、丸根古墳等)の板面を更新した。 文化財防火デーに合わせて、観福寺(大田町)で文化財防火訓練を実施した。 児童～一般を対象とした文化財めぐり(発見!わがまち探検隊)を荒尾町周辺で開催した。				
目標に対する 評価	文化財等の維持管理及び所有・管理者への補助事業により適正な保存を図ることができた。 老朽化した文化財表示看板の板面を更新することで文化財の普及活用に資することができた。 また、文化財防火訓練を観福寺で実施し、貴重な文化財に対する地域の防火意識の高揚に寄与した。				
課題・改善点	今後も文化財等の適正な保存を図るとともに、継続的に普及啓発を実施し、普及啓発事業の内容の検討をする。				

単位施策 15-2 郷土の歴史や文化に親しむ機会を提供する

【社会教育課】

番号	1	事業名	嚶鳴広場特別展示等開催事業	事業費	3,119 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	細井平洲先生をはじめ全国各地の偉人・先人の教えを発信するため、嚶鳴広場を拠点に故童門冬二氏の功績を振り返る講座及び各種展示等を実施する。				
実施内容	嚶鳴広場における童門冬二氏の図書及び資料の展示や、各種講演会、特別展示等を実施した。 ・「童門冬二の嚶鳴講座」2回 ・特別展示2回（作家・童門冬二氏が遺したもの 等） ・企画展示2回（ひなまつり展 等）				
目標に対する 評価	嚶鳴フォーラム in 東海 2025 の開催と嚶鳴広場 10 周年を記念して、童門冬二氏が、今を生きる我々に残したものをテーマとした特別展示を行った。また、講座についても、童門冬二氏と関わりのあった方に講師をしていただくことで、先人及び歴史から学ぶ姿勢を改めて見つめ直す機会を提供することができた。				
課題・改善点	童門冬二氏が亡くなられたことから、「童門冬二の嚶鳴講座」は、令和7年度で一区切りとし、今後、名誉館長のあり方及び著作物の寄託等について検討していく必要がある。 先人の教えや歴史を市民及び全国へ広く発信・顕彰するために、市民等のニーズに即した様々な展示等を開催していく。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	細井平洲顕彰事業	事業費	9,870 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	細井平洲先生の嚶鳴の教えを生かした交流を進め、全国への情報発信、ふるさと東海市への愛着を深めるため、細井平洲先生の遺徳を顕彰する事業を実施する。				
実施内容	令和6年度に制作した「へいしゅうカルタ」を活用したカルタとり大会を実施した。またカルタの図柄を活用して聚楽園駅前の寺中坂に設置の案内板の再整備工事を実施した。 小学校3年生を対象として郷土資料館での体験学習の受け入れを学校単位で実施し、小学校5年生についても平洲記念館での調べ学習の受け入れを学校単位で実施した。 作家の故童門冬二氏の平洲記念館名誉館長としての功績を顕彰することを目的として、市民向けのリーフレットを作成し配布した。				
目標に対する 評価	へいしゅうカルタを活用した様々な事業を行うことにより、細井平洲先生や平洲記念館を広く知ってもらうことができ、平洲先生の遺徳顕彰に寄与することができた。 20年近くにわたる故童門冬二氏の平洲記念館名誉館長としての功績や考えを伝えることにより、細井平洲先生の遺徳を市内外に広く顕彰することができた。				
課題・改善点	へいしゅうカルタとり大会については、持続可能な事業となるように内容の見直しを図り実施していく必要がある。平洲記念館においては引き続き講座等を開催していくことで、細井平洲先生の遺徳顕彰をはかっていく。				

【社会教育課】

番号	3	事業名	嚶鳴協議会活動事業	事業費	7,586 千円
令和7年度 (2025年度)の 計画・目標	ふるさとの先人をまちづくりに活かしている自治体で組織している嚶鳴協議会に参加するとともに、協議会の取り組みの全国への発信や、協議会加盟自治体との交流を図りながら細井平洲先生の遺徳顕彰を含めた事業を実施する。				
実施内容	18回目となる嚶鳴フォーラムを、創造の杜交流館の開館に合わせて、1回目からの総括のフォーラムとして、また、今後の嚶鳴フォーラムのあり方を検討するため、東海市で開催した。 参加者数 開会行事参加者 43 人 市町長会議 6 市町の市町長または代理等 教育長会議 8 市町教育長または代理等 ふるさと先人交流会 77 人、意見交換会 27 人 公開行事参加者 188 人				
目標に対する 評価	公開行事では、作家 秋月達郎氏による記念講演及び市町長サミットを実施し、ふるさとの先人及び地域の歴史・文化を地域づくりに活かす有効性と大切さを共に考え、再確認する機会を提供することができた。 市町長会議では、令和6年1月に御逝去された作家の童門冬二氏を嚶鳴協議会の永世名誉会長として追贈することを決定し、ふるさと先人交流会にて報告した。				
課題・改善点	嚶鳴フォーラムの開催は一区切りとなり、協議会としての転換期を迎えているため、今後の事業展開及びあり方について、加盟自治体間で調整を図りながら検討を進めていく必要がある。				